



MEIKAI

明海大学
編集・発行
企画広報課

Contents

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 学長年頭所感 | 5 就職戦線を乗り切れ! 就職サポート特集II |
| 2 HT学部「ツーリズムEXPOジャパン」 | 6 2014年度公開講座 |
| 3 歯学部交換研修プログラム | 7 明海スポーツ |
| 4 就職戦線を乗り切れ! 就職サポート特集I | 8 明海祭・けやき祭開催 |

学長年頭所感

改革のとき —実りある学びを提供—

2015年未年の新年を迎えました。明海大学の学生と教職員の皆様、そして同窓会、教育後援会をはじめとして明海大学を支援して下さる多くの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

教育の改革

さて、社会は政治・経済・医療福祉など、あらゆる面で多くの課題を抱えておりますが、大学教育あるいは大学院教育も常に改革を実行し、学生や保護者の皆様の期待に応えていかなければなりません。

明海大学浦安キャンパスが「建学の精神」の更なる具現化を求めて、新しい教育課程を開始したのが2010年でした。「建学の精神」の追求こそが大学の魅力を創り上げていくという強い信念を持っているからです。18年間という初等中等教育等を経て大学に進学してくる子どもたちが社会に出る前に自らを磨き育てる最後のチャンスが大学です。そこで、建学の精神でもうたっている社会性・創造性・合理性を体得することで、真に社会から求められる人材へと成長していきます。その教育課程で学んだ学生が初めて社会に巣立ってきました。保護者の皆様と一緒に育

て上げた子どもたちが社会でいきいきと活躍してくれることを心から期待しているところです。

新しい教育課程が完成した昨年、2015年度からの教育課程編成に向けて、学長としての10の目標を提示しました。1. ディプロマ・ポリシーと科目整合性を図ること、2. 学修の順序性を示すこと、3. 開講科目のスリム化を図ること、4. 非常勤教員については推薦者を明確にすること、5. アクティブ・ラーニングを工夫すること、6. 体験型授業・プロジェクト型授業への改革を行うこと、7. 学びの振り返りができること、8. 評価の視点を明確化すること、9. 「わからない」とは言わせない授業を意識すること、10. 授業環境を整えること、の10項目です。この10の目標の達成と新しい教育課程の発展を目指します。

教育プログラムの充実を図る

このような状況の中で、歯学部においても、本年の4月から「新しい時代の歯科医師」養成を深化させて教育課程を新たなものにするべく大きな改革を致しました。これからの時代、国民のQOLの維持向上と誤嚥性肺炎等の老人性疾患の予防による健康寿命の延伸のためには「新しい



安井利一学長

時代の歯科医師」が必要であり、現在の歯科医師養成では国民の期待に応えるだけの歯科医師数が確保できないと考えているからです。基礎力と臨床力を兼ね備え、そして「尊厳と愛」を心に抱く歯科医師養成をしっかりと実践していく覚悟です。

大学院と生涯研修部の事業の一体化を行い、高度で優れた臨床の知識と技術を兼ね備えたスーパードクターを目指す大学院「高度口腔臨床科学コース」も順調です。生涯研修部では「マスタークリニシャン」の育成を、我が国初めての圧倒的な臨床力を養成する「歯科総合医」コースでも最初のエクセレント・クリニシャンの育成を目指します。まさに「生涯教育の明海大学」の名に恥じない教育システムであると思います。もちろん、研究者として優れた研究能力を有する歯科医師等を目指す大学院「口腔生命科学コース」も充実させています。

【2面へ続く】

【1面から続く】

浦安キャンパスの外国語学部（日本語学科、英米語学科、中国語学科）、経済学部、不動産学部そしてホスピタリティ・ツーリズム学部においては、「明海の人間力」の育成を目指して、人間力形成と専門基礎力の養成、そして夢を実現できる職業選択が可能な高い就職率を目指します。

外国語学部においては、今年の4月から2年生がグローバル・スタディーズ専攻に入ってきます。ASEAN諸国でのインターンシップを始めとして多彩なプログラムで子どもたちの満足度を向上させます。日本語・英語・中国語の3カ国語の基礎を有する「新しい時代のビジネスパーソン」の育成とともに教員養成や言語科学のスペシャリストの育成に力を注ぎます。経済学部も、この4月からグローバル経済コースとグローバル経営コースの2コースに分けて、かつ4年間の一貫ゼミ制を展開して、

「グローバル・ビジネスパーソン」の育成を目指します。不動産学部においては昨年、新しい教育課程を構築し、全員が宅建資格を取得するプログラムを開始しました。不動産学部に入学者たちには、最初に宅建資格を取得する学修の中で「不動産学とは何か」の感覚を研ぎ澄ましてもらいながら、今後の我が国の不動産の中核になってもらいます。また、引き続き地元の浦安市を支えるため産学官からなる「浦安コンソーシアム」を通じて支援していきます。ホスピタリティ・ツーリズム学部においては私立大学観光系学部就職率ナンバーワンの実績を踏まえて、更なる学生の自己実現への支援を図ります。

更なる大学の発展に向けて

教育後援会地区懇談会等で多くの保護者から、愛情を持った学生への対応に高い評価と感謝の言葉を受け

ることができるのも教員一人ひとり、職員一人ひとりの努力によるものです。

また、浦安キャンパスでは就職力強化としてキャリアサポートセンターを一新するとともに、正課外の活動としてのボランティア活動やインターンシップ活動、そして本学ならではの海外研修を通じて、学生一人ひとりの力をはぐくむ教育に一層の努力を傾注します。さらに、体育会・文化会活動においても、優秀な監督・コーチの下、国内外での活躍を目指します。また、研究活動においても、社会資源となる有意な研究を教員個々が倫理性を持って推進していきます。医療においては歯学部の付属病院やPDIでの患者満足度の向上を図ります。

「明海大学だからこそできること」に教職員全員の力を結集するとともに、教職員一人ひとりが素晴らしい年になるよう努力します。

ホスピタリティ・ツーリズム学部 「ツーリズムEXPOジャパン」に出展

世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン」が、9月25日から28日までの4日間にわたり東京ビッグサイトで開催され、国内の大学からは唯一、本学ホスピタリティ・ツーリズム（以下HT）学部が出展した。25日・26日は業界関係者招待日、27日・28日は一般来場者向けとして開催され、過去最大となる15万人を超える来場があり大盛況であった。

2014年からこれまでの「旅フェア」と「JATA旅博」が統合して、新しい旅のイベント「ツーリズムEXPOジャパン」へと生まれ変わった。出展する国や地域が趣向を凝らしたブースで旅気分を味わい、国内、海外の様々なステージパフォーマンスやグルメ

を楽しめるイベントになっている。

HT学部では実社会で活躍できる人材を輩出するべく実践教育を展開しており、その一環として2005年から毎年このイベントに出展している。ブースでは学生が主体となり、「飾り毛布折り方教室」を開催した。

「飾り毛布」は、毛布を花や自然の風景、動物などの形に折って客室を華やかに演出し、お客様をもてなすサービスである。

企画段階から携わった学生は、「多くの方がブースに

足を運んでくださり、飾り毛布の実演を楽しんでもらうことができたのでとても嬉しかった。想像以上に外国人のお客が多く、英語で折り方を説明するのに苦労したので、より一層英語力を磨かなければと思った。今後も、日本のおもてなしの心を世界にアピールしていきたい」と語り、大成功で幕を閉じた。



多くの来場者を魅了した本学のブース

歯学部相互交流 プログラム

各国協定校から研修生が来学

歯学部では国際未来社会で活躍し得る歯科医師を育成するため、海外協定校との相互交流に力を入れている。なかでも交換研修プログラムは本学歯学部の大きな特色のひとつ。学生のうちから諸外国の歯科医学の現状を学ぶことができる海外研修制度を設けるとともに、研修に参加した学生が海外から研修生を迎え入れることで、継続的かつ相互的な交流が実現できるプログラムとなっている。

10月28日から31日にかけて、イタリアのシエナ大学から研修生2人とインストラクター1人が来学した。研修生らは、本学の臨床研修機関の一つである浦安PDIを見学後、30日には坂戸キャンパスを訪れ、歯学部の国際交流の歴史や教育に関する特別講義を受講。その後は、付属病院や学内の施設見学を行い、日本の歯科医療の現状への理解を深めた。研修生からは、「小児歯科医は他の

歯科医師とは違うユニフォームを着用し、子どもが怖がらない工夫をしていることや、診療台の横に仕切りを設け患者のプライバシーを確保していることなど、患者が安

心して治療を受けられる環境が整っていると感じた」といった声が聞かれた。また、林丈一朗准教授による歯周病患者の治療に関する臨床講義では、熱心に耳を傾ける様子が見受けられた。研修期間中は、3月にシエナ大学への海外研修に参加した本学在学学生が世話役を務めており、学生間の交流も活発に行われた。

12月17日から21日には中国の第四



本学の充実した施設を見学するシエナ大学の研修生ら

軍医大学口腔医学院の研修生5人と引率教員2人が来学し、本学部の設備や付属病院の施設見学等を行い、日本の歯学教育の在り方を肌で感じた。また、藤澤政紀教授による臨床講義「汎用デジタルカメラによる顔面の三次元計測」では、歯科医療技術の最新事情を学んだ。今後もそれぞれの国・大学の歯科医療の強みを共有し、さらなる発展に期待したい。

不動産学部 キャリアデザイン

業界トップによる講演

不動産学部の授業科目「不動産キャリアデザイン」は、不動産業界の第一線で活躍している企業人や行政トップを講師に迎えることで、学生の就職意識の向上を図ることを目的と



(株)エイブル&パートナーズの平田社長

して開講されている。

11月20日にスターツCAM(株)代表取締役社長の直井秀幸氏、12月4日に(株)エイブル&パートナーズ代表取締役社長の平田竜史氏が講演を行った。いずれも不動産学部生の採用実績が多数にのぼる企業で、社長自らが講演する貴重な機会ということで、学生も緊張して講義に臨んだ。

直井社長は、スターツグループは「人はこころがすべて」というスターツポリシーを実践し、いままで社員をリストラしたことがないことや、イノベーションを持続し、新規事業開発に力を入れ情報を発信し続けて

いることなどを、具体例を交え力強く語った。

また、平田社長は、過去10年間での賃貸仲介実績が業界トップであるが、それはいままでの常識を打破し、新しいビジネスモデルを展開し続けたことが大きな要因であることや、これからの戦略などについて実績を踏まえて、分かりやすく語った。さらに、就職活動を控えた学生に向けて、コンピテンシーの具体例、企業研究のポイント、就職活動に当たっての心構えなどを丁寧にアドバイスした。

学生からは、地域密着型営業展開の候補地選定基準や、重要事項説明のIT化に当たっての問題点など、不動産学部ならではの様々な質問が飛び交い、大変充実した講義となった。

就職戦線を乗り切れ！ 就職サポート特集I

OB・OGから学ぶ業界・職種研究セミナー

「就職に強い」実学志向の大学を目指す本学浦安キャンパスでは、理想のキャリアの実現に向けて、4年間一貫したキャリア教育を行っている。早い段階から就業意識や職業観を養い、卒業後の進路を見据えたキャリア教育を推進しており、就職ガイダンスやセミナーなどを多数開催している。

11月13日には3年生を対象に、ホテル、流通、金融、不動産業界などで活躍する本学の卒業生を招いた「OB・OGから学ぶ業界・職種研究セミナー」が行われた。16の企業から19人の卒業生が参加し、現在の仕事内容や学生時代に取り組んだこと、就職活動のアドバイスなどが語られた。憧れの企業で活躍している卒業生から直接話を聞ける絶好の機会とあって、メモを取りながら熱心に説明に聞き入る学生や、卒業生

に積極的に質問する学生の姿が見られた。

岡三証券㈱の松倉芽菜子さん（英米語学科13年卒）は自らの就職活動を振り返り「就職活動では大学のキャリアサポートセンターを有効活用してください。私自身も在学中に何度もアドバイスをもらったおかげで、今の職場から内定をもらえました」と語った。

参加した学生からは、「卒業生から直接話を聴くことで、就職活動に

対する不安を解消することができてよかった」「仕事の内容について理解が深まった」といった声が聞かれるなど、業界への理解を深め、将来のキャリアイメージを描く貴重な機会となった。



岡三証券㈱の松倉芽菜子さん

留学生のための就職ガイダンス 留学生への就活サポートも充実

800人を超える外国人留学生が学んでいる本学浦安キャンパスでは、各種留学生サポート制度の充

実を図っている。11月20日に開催された「留学生のための就職活動ガイダンス」も、卒業後に日本国内で

の就職を希望する留学生への支援を目的としている。

ガイダンスでは、外国人留学生専門の就職情報サイト「リュウカウ・ネット」を運営する㈱オリジネーターの工藤尚美氏が、留学生の就職状況や企業が留学生に求めるポイントなどを説明。また、日本と諸外国での文化の違いを引き合いに出しながら、日本の就職活動におけるビジネスマナーについても解説した。

工藤氏は「日本における外国人留学生の就職活動は長く大変な道のり。だからこそ、一度選考に落ちてもそこで立ち止まらずに、しっかり自己分析を行って、夢に向かって進んでください」とアドバイスし、これから就職活動を開始する留学生らを激励した。参加した留学生らが熱心にメモを取る姿からは就職活動に対する意気込みが感じられた。



真剣に話を聞く外国人留学生

就職戦線を乗り切れ！

就職サポート特集Ⅱ

内定者
報告会

就活を勝ち抜いた学生からアドバイス

本学では在学生の就職活動をサポートするためにさまざまな支援を行っている。12月4日にはその一環として内定者報告会が開催され、厳しい就職戦線を勝ち抜き、見事内定を獲得した4年生6人によるパネルディスカッションが行われた。

壇上に登った4年生たちは、(株)ジェイアール東海パッセンジャーズや東急リバブル(株)、(株)JTB首都圏などから内定を獲得しており、就職活動に臨む3年生にとって貴重な話が聞ける機会となった。パネルディスカッションでは、それぞれの就職活動に対する心構えをはじめ、エントリーした企業数、その後実際に選考へ進んだ企業数などが語られた。「あらかじめインターンシップを通して業種を絞っていたので、エントリー数は少なく本当に志望する数社のみだった」という意見もあれば、「エント

リーすることによって視野も広がる。多くエントリーし、興味のある企業を調べつつ、自分に合った志望先を探していった」という意見もあり、多種多様な就職活動のスタイルが提示された。一方で、インターンシップやOB・OG訪問、企業訪問といった



内定獲得までの道のりを語る4年生

自ら動いて情報を集めることの重要性は誰もが共通して語っており、「就職活動用のポータルサイトや企業の公式ホームページに載っている情報は誰でも手に入れることができる。自分の足を使って得た情報こそ価値がある」とアドバイスがあった。

会場に詰めかけた3年生は真剣な表情でメモを取っており、就職活動に対する熱意が感じられた。

ホスピタリティ・ツーリズム学部
社長講座 ジェイティービー会長らが講演

ホテルや旅行、エアライン業界などに高い就職率を誇るホスピタリティ・ツーリズム（以下、HT）学部では、企業が求める人材の育成を目的に、実践教育に力を入れている。

HT学部の授業科目「特別講義Ⅱ（通称：社長講座）」では、日本のHT業界を代表する企業の経営トップを招き、オムニバス形式で業界の動向や仕事に対する心構えを学ぶ。10月30日に(株)帝国ホテル会長の小林哲也氏（HT学部客員教授）、11月13日に(株)ジェイティービー会長の田川博己氏（HT学部客員教授）、20日にワタベウエディンググループ(株)黒雅叙園代

表取締役社長の梶明彦氏を招き、講義が行われた。

ジェイティービーの田川会長は、日本における観光業の現状とJTBグループの取り組みを説明した上で、今後の訪日外国人観光客拡大と2020年に向けての課題について「日本のホスピタリティの節目の年になるであろう2020年に向け、外国人観光客を受け入れる日本人の意識改革が必要とされる。将来、観光業界で働く皆さんには、訪日旅行品質向上のため、さまざまな国から来る外国人観光客を温かな目で迎え入れ、日本の観光マナーを指導してほしい」と語った。

日本のツーリズム産業を代表する企業の経営トップの話に、学生は真剣な表情で聞き入っていた。

今後は、1月15日に全日本空輸(株)常務取締役執行役員オペレーション部門副統括客室センター長の河本宏子氏を招いての講義が行われる。



講義するジェイティービーの田川会長

2014年度浦安キャンパス公開講座

食の安全と未来

10月25日、浦安キャンパスで2014年度公開講座「食の安全と未来」が開催され、市民をはじめとする多くの受講者が会場に詰めかけた。講師として招かれた、食品表示アドバイザーの垣田達哉氏（消費者問題研究所

代表）からは「我が家の食卓を守る正しい知識」、農業に関する数多くの著書をもつ神門善久氏（明治学院大学経済学部教授）からは「世界農業と日本農業の未来予想図」と題した講演が行われた。



対談の様子

垣田氏は講演の中で、中国の食品表示問題を取り上げた後、加工食品における食品表示の現状とその意味について解説し、「ぜひ本日の講演を今後の食品選びの

参考にしてください」と語った。続いて、神門氏は世界の農業と日本の農業の現状について説明した上で、今後は農業のマニュアル依存化が進み、技術力の欠如が懸念されることに警鐘を鳴らした。

その後、両者に加え、本学経済学部の中澤栄一准教授と宮崎礼二准教授を交えて、「食の安全と未来はだれが作るのか？」をテーマに、それぞれの観点から対談が行われ、受講者からの質問にも答えながら活発な意見交換がなされた。

受講者からは「日本や世界の食に関する現状を知り、意識して生活をしていく大切さを感じました」「食の安全に不安を抱えていたので、とても参考になりました」「経済や農業・社会問題など幅広い分野で考えることができ、有意義な時間でした」などの感想が寄せられ、2014年度公開講座は大好評のうちに終了した。

2014年度歯学部公開講座

「食事」と「口腔」の関係に強い関心集まる

10月11日、坂戸キャンパスで2014年度歯学部公開講座が行われ、「食事をず〜っと『おいしく』食べるには？」をテーマに本学歯学部形態機能成育学講座生理学分野村本和世教授および溝口尚子助教が講演し、市民ら約110人が熱心に耳を傾けた。

中嶋裕歯学部長および渡部茂歯学部公開講座運営委員長のあいさつの後、村本教授は「五感を使っておいしく食べよう！」という演題で、「おいしい」という感覚は舌ではなく、脳で感じていることを述べ、「おいしさ」とは、食物の味・ニオイ・視覚情報・触覚などをまとめた感覚総合情報が、生理的欲求、習慣・文化、食情報に影響を受け、脳内報酬効果を得ることであると説明した。

さらに、溝口助教は「安心して食べるには？」という演題で、特に摂食・嚥下障害とは何かを具体例を挙げ説明した上で、口から食事を摂ることに不自由を感じない生活を維持するにはどういった予防策があるかを説明。「日頃から猫背にならないように気をつける、深呼吸をしてから食事

を開始するようにするなどのほか、ストレッチや口を大きく開ける訓練も効果がある」と話した。

「食事」という身近なテーマであったことや、講演者の分かりやすい解説に、来場者からは高い関心が集まり、「今後は食事の際にむせないように常に意識していきたい」「肺炎になる原因に口の中の汚れも関係あることに驚いた」「次回は歯の違う題目での講演も期待したい」といった声が聞かれ大好評のうちに終了した。



好評を博した歯学部公開講座

体育会ヨット部

ジュニアワールド1位の快挙

11月20日から24日にかけて開催された第43回全日本470級ヨット選手権大会兼第28回全日本女子470級ヨット選手権大会において、木村沙耶佳（経済学科2年）・林優季（経済学科2年）ペアが全日本女子470級選手権3位入賞を果たした。また、本大会は2015年ジュニアワールド選考レースも兼ねており、そちらでは女子1位を達成。この結果、2016年に開催されるリオ・オリンピック出場に向けた最終選考レースへ駒を進めることとなった。

林選手は「今年、イタリアで行われたジュニア世界選手権大会に参加できたことは嬉しかったが力を発揮できなかったのが、来年の大会（ギリシャ開催予定）では良い成績が残せるよう頑張りたい」と意気込みを語った。

世界へ向けて更なる活躍を期待したい。

10月3日から5日にかけて開催された第81回関東学生ヨット選手権大会兼平成26年度全日本学生ヨット選手権大会（予選）において、本学体育会ヨット部が470級2位、スナイプ級5位で総合4位となった。この結果、第79回全日本学生ヨット選手権大会

（以下、全日本）決勝に出場する切符を手に入れ、関東代表として全日本の両種目3年連続出場を成し遂げた。

全日本は10月31日から11月3日にかけて、福岡県福岡市『小戸ヨットハーバー』で開催された。本大会は、2日目までは無風

ノーレースと厳しい状況であったが、3・4日目に絶好のコンディションの中、計7レースが実施された。本学体育会ヨット部はスナイプ級5位、470級8位で総合7位となった。

國府田由隆監督は「勝てる試合だったが、自分たちのミスで自滅してしまった。普段通りの走りができれば優勝争いの中にいた。今回はプレッシャーに負けたのが大きな敗因だ」と語った。



学生トップとなった木村・林ペア

2015年入試日程 詳細は必ず入学試験要項をご確認ください。

浦安キャンパス 外国語(日本語・英米語・中国語学科)/経済/不動産/ホスピタリティ・ツーリズム学部

入試区分	出願期間	試験日
一般入学試験(A方式)	1/9(金)～1/23(金)	2/1(日)、2/2(月)、2/3(火) ※試験日自由選択制 ※2/1、2/2は仙台、郡山、新潟、静岡の各会場でも実施
大学入試センター試験利用入学試験(A方式)	1/9(金)～1/27(火)	1/17(土)、1/18(日) 大学入試センター試験 ※本学での個別学力審査はありません

■お問い合わせ 浦安キャンパス入試事務室 TEL 047-355-5116 ※インターネットからも出願できます。

坂戸キャンパス 歯学部

入試区分	出願期間	試験日
一般入学試験(A日程)	1/8(木)～1/21(水)	1/26(月)
大学入試センター試験利用入学試験(A日程)	1/8(木)～1/21(水)	1/17(土)、1/18(日) 大学入試センター試験 1/26(月) 面接試験 ※仙台、福岡の各会場でも実施

■お問い合わせ 歯学部入試事務室 TEL 049-279-2852

学園祭
開催

地域との絆を深める

浦安キャンパス

第27回明海祭

11月1日から3日の3日間にわたり、「繋〜ツナグ〜」をテーマに浦安キャンパス第27回学園祭「明海祭」が開催された。人と人とのつながりを深め、広げる場となるような時間を提供したいという想いを形にした3日間となった。明海祭では、学生による模擬店をはじめ、人気アーティストDEEPのコンサート、タレントの菅谷哲也さんによるトークショー、人気お笑い芸人ウーマンラッシュアワーらのライブなど、さまざまなイベントが開催された。なかでも、毎年人気を集めているフリーマーケットや来場者参加型のオリエンテーリング、シャボン玉体験では、子どもからお年寄りまで幅広い年代の方々が楽しむ姿が多く見られた。また、屋外

ステージでは吹奏楽部の演奏やダンスサークルの発表などの本学学生によるプログラムに加え、地域の方々が行う太極拳同好会やメイカイクラブ会員によるパフォーマンスもあり、会場を大いに沸かせた。学園祭実行委員長の菊地真衣子さん（英米語学

科3年）は、「スタッフが一丸となって創り上げた学園祭に、地域住民をはじめ多くの方々にご参加いただけたことをとても嬉しく思います。学生同士のつながりだけでなく、地域の方々とのつながりもさらに深まった3日間でした」と語った。



観客を魅了した吹奏楽部の演奏

坂戸キャンパス

第44回けやき祭

10月11日、12日の2日間、坂戸キャンパス学園祭「けやき祭」が開催され

た。本学創立とともに歩み、今年で44回目を迎えた「けやき祭」は、テーマを「けやき祭、魅せるぞ皆で、地域の輪」と掲げ、多彩なイベントが催され、多くの来場者でにぎわった。

さまざまな模擬店やバスケットボール大会、軽音楽部ライブ、部活対抗学力検定などが行われ、毎年好評のクリニカルリサーチ部による「骨密度測定」には多くの地域住民が参加し、学生との交流を楽しむ姿が見られた。

また、当日はオー

ブンキャンパスも同時開催され、入試相談やキャンパスツアーを終えた後、けやき祭を楽しむ受験生の姿が見られた。2日目の後夜祭では、部活対抗美食コンテストやビンゴ大会などを開催。最後には人気お笑い芸人「ゆっぺい」や「ゴー☆ジャス」が出演し、会場は大いに盛り上がった。

けやき祭実行委員長の田邊龍介さん（歯学科4年）は、「今年は、一昨年のけやき祭のコンセプトである『近隣の皆様と一緒に楽しむこと』と、昨年のコンセプトである『地域と繋がることができるように』のどちらも目指すという気持ちを込めて開催しました。学生同士だけでなく、地域の方々ともさらに交流を深めることができました」と語った。



歯学部ならではのプログラム